

ARCHTECTURE REVIEW



建築見て歩記 その38

石山修武による設計で、1973年に竣工した「望遠鏡」という作品です。豊橋から伊良湖へ向かう国道259号に面しており、以前は事務所として使われていましたが、今は廃墟のような佇まいです。石山氏のデヴュー作である「幻庵」の竣工が1975年ですから、これは川合健二郎で受けた衝撃から、独自の作品へと至る、過渡期の「習作」と言えると思います。

CURRENTLY WORKS



調剤薬局の新設計画 建物からのデザイン

弊社は、社内に建築好きが多く、建物自体からのデザインにも積極的に取り組んでいます。クリニックと連動したデザインや、薬局からの地域への発信など、様々な条件を踏まえて計画しますが、最も大切なことは患者さんへの心遣いです。調剤薬局であることの視認性、そこへの誘導わかり易く入り易い入口など、常に機能性と美学の融合を考えています。

PRIVATE TOPICS



岡島の「医療への想い」…心と体を癒やす空間デザイン

患者様は、どんな病気にしる健康な時より心も体も疲れています。医師に診て頂く前に待ち、診察が済んで待ち、薬局でまた待ちます。だから「確実で早い調剤」「やさしさで癒される言葉が付加された服薬指導」が不可欠です。さらに目や心に刺激を与える空間…いつときでも、病から心が離れ「癒される」と感じる調剤薬局のデザインが必要だと考えます。

EDITIONAL NOTE

名古屋の酷暑がやっと一段落つく9月です。ですが、まだまだ残暑は続き、涼しさを感じ始めると今度は台風が襲ってきます。これも、日本の風物詩のひとつとして受け入れる事も出来そうですが昨今の自然は、想定外の災害が多く、ご遠慮願いたいというのが本音です。せめて食欲の秋でも…

編集担当：太田・藤原